

日銀の視点

水戸に単身赴任中の私にとって、休日に時間ができた時に気軽に訪れることができるエンターテインメントがいろいろあるのはありがたい。スポーツ、音楽好きなので、茨城ロボッツ、水戸ホーリーホックの試合や、水戸芸術館に行ったりする。落語の知識には全く乏しいが、水戸みやぎん寄席にも時折行く。今年も早速、3連休の中日に足を運んだ。

今回は古今亭志ん雀師匠。

日銀水戸事務所長 上野 淳

水戸みやぎん寄席に行くたびに、涙が出るほど笑ってしまっただけ、この日も裏切らない。最後の「妾馬」という演目では、笑いだけではなく、人情味でも心温かくなった。主人公の八五郎は、家賃の支払い

が面白い。殿様に「おもてを上げよ」と言われ、「この量表、一人では持ち上げられませんよ」といった調子。殿様は、普段通りの言葉遣いで話すことを許すなど、寛容だ。八五郎は振る舞われた高級酒

りの子（の顔を一度でいいから見せてやってほしい）。人として当たり前のことが、身分の違いから普通にはできないのである。幸い、殿様の計らいで願いはかない、八五郎は武士に取り立てられ、私も

幸せな気分にならされた。話を終わって、私どもの役割は、皆さまに安心してお金を使っていただけのようにすることだ。そのため、きれいで偽造されにくいお札を発行したり、物価の安定を図るための金融政策を行ったりしている。経済・物価情勢は複雑化しており、政策判断も、また、それを平易に説明することも、簡単ではないが、今年も心して責任を果たしていきたい。

新年落語で決意新たに

た。

にも苦勞している一庶民。しかし、その妹のお鶴は縁あって殿様の側室となり、跡取りとなる子を出産した。めでたいうこと、八五郎は招かれて殿様の屋敷に行くが、武家の作法や言葉が分からない。これに起因するドタバタ

に酔い、脇にいる重臣に「一緒に呑みましようよ。そんなお堅いこと言わず」と勧めつと、重臣が「それでは」と言ふと、「呑ませない」とちやかす。しかし、酔った八五郎の口から出た殿様へのお願いが心を打つ。「母に孫（跡取

思わず自分の仕事に引き寄せられてしまった。日銀は武家ではないが、公的な使命を帯びており、国民の皆さまからの信頼を損なうことのないよう、時に「そんなお堅いことを」と言われても、役員は節度を保つ必要がある。

(次回は2月10日掲載)